

Title	日本の航空機産業国際競争力に関する一考察
Sub Title	
Author	上間英昭(Uema, Hideaki) 関口操
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1979
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001979-0012

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 上 間 英 昭 主査 関 口 操 教授
(石川島播磨重工業株式会社) 副査 古 川 公 成 助教授
所属ゼミナール 古 川 公 成 研 小 野 桂之介 助教授

日本の航空機産業国際競争力に関する一考察

通産省の「80年代の通商産業政策ビジョン」によれば、航空機は電子計算機と並び、技術、知識集約型の先導産業と見なされている。しかし日本の航空機産業は、防衛需要依存度が高く、輸出も少なく、国際競争力のある産業とは言えない。日本の航空機産業がなぜ国際競争力のない産業となったのか。これを解明するのが本論文の目的である。

国際競争力とは、高品質の製品を適正な価格で、国際市場に提供出来る力であろう。しかしこれは結果であって、そのような製品を生み出すには、それにふさわしい技術力、生産能力、マーケティング力などが背景になければならない。日本の航空機産業は果してこのような基礎能力を持ち、産業組織や開発体制に不備はないだろうか。本論文では、国際競争力という観点から、日本の航空機産業の前述の各能力に検討を加え、国際競争力のない真の原因を究明する。

また航空機産業は、システム産業という特性を持つ。システム産業で成功するには、前述のような各能力が優れているのは勿論のこと。プラハラッドが言うように「技術革新と経営管理の強みのような、他の要素との良好な結合」つまり総合力が必要である。以上のことから本論文では「日本の航空機産業が国際競争力を持ち得なかった根本的な原因は、各部分をまとめる総合力の欠如である」という仮説を設定し、これを実証する。